会　議　録

１　会議名

令和５年度第７回直江津区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

・令和６年度地域独自の予算について（公開）

３　開催日時

令和５年８月２２日（火）午後６時３０分から午後７時５３分

４　開催場所

上越市レインボーセンター　多目的ホール

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、田村雅春、中澤武志、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者２名）

・事務局：　北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

８　発言の内容

【近藤副所長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

・挨拶

・会議録の確認：河野委員、竹田委員に依頼

議題【協議事項】令和６年度地域独自の予算について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

前回の会議で、地域独自の予算の事業提案に向けて検討する事業を①直江津地区自主防災組織事業と②直江津地区環境整備事業の二つとし、ワーキンググループに分かれて関係団体と意見交換を行うこととした。また、ワーキンググループで関係団体との意見交換を踏まえ、提案書の案を作成することとした。

本日は、各ワーキンググループより関係団体との意見交換とそれを踏まえた事業提案の検討状況を報告していただき、提案に向け具体的な事業案について協議を進めていただきたい。

【青山会長】

まず、直江津地区自主防災組織事業ワーキンググループに説明を求める。

【磯田副会長】

２１日にワーキンググループの久保田委員、今川委員、古澤委員、田村委員、防災士会直江津支部の支部長はじめ３名、直江津地区の町内会長３名と意見交換をした。それに先立ち、古澤委員と私で防災士会の事務局長のところに、事前に打ち合わせに行かせていただいた。大まかには、なぜ共同提案かということをお伝えし、独自提案ではなくて地域協議会と一緒に提案することによって上越市に働きかけるということが一番の目的である、ということでお話をさせていただいた。防災士会の方々からは、概ねご理解をいただいており、「ぜひ出せるものなら出したい。一緒にさせてほしい。」というお話をいただいている。また、全部の町内会長が来られているわけではないが、それぞれの町内会によってかなり事情が異なるという側面もあり、「いきなりたくさんの事業をやるのは難しい」という話があったり、「今うちは、なかなかできないな」という話もあった。

そういうなかで、どのような提案書を作っていくかということを、これをベースに、全部の事業をいっぺんにというのはなかなか難しいので、少しソフィスケートしながら、できる事業からうまく進めていくような提案書にしていく。そして、提案書ができた時点で、もう一度皆さんと話をしたほうがよいのではないか、というご意見も出た。ただ、タイムスケジュール的には非常に厳しい状況なので、一堂に会した会議というのができるかどうかは微妙なところではあるが、一応これに基づいて提案書を作っていくという話になった。

内容を説明すると、「１）地域支援事業から地域独自予算へ」というのは、防災士会の人たちも、各町内会長さんたちも、地域活動支援事業からどこがどう変わって地域独自予算となったのかというのが、まだご理解いただいてない方もいらっしゃるかと思い作

った資料である。

「２）地域協議会と地域団体が共同で提案する意義」は、今回、基本的には、市の事業としてやっていただきたいという大きな希望があるので、提案団体としては、地域協議会だけでも発議ができるが、実際に事業を行っていく、参画していく団体と共同で提案することによって、より強いメッセージを送ることができるということで、こういう形にさせてもらう。地域協議会が一緒にやる、或いは、地域協議会発議は、なんでもそうなるわけではないということで、これは前に一度お示ししている内容を再整理したものである。「１）直江津区における地域活性化の方向性に合致」、「２）そのなかでも行政と地域が連携し、取り組む必要がある事」、「３）直江津が全市的に見て防災危険地域である事」、「４）上越市の向かうべき方向性とも合致している事」、「５）全市的課題解決の先例モデルとなりうる事」があって、この事業を共同で提案するという位置付けにしている。

「３）取組の目的」は、課題と目的に分けてあるが、説明は割愛させていただく。「実効性のある自主防災組織の再構築」ということ、「有事を想定した防災士のリーダーシップによる組織の実効性」を作っていくのが大きな課題である。そのなかで、目的として２番目、上越市の地域防災計画に示されている基本的考え方の「８、地域ぐるみの防災活動の推進」、このために防災士会直江津支部だけの事業ではなく、地域協議会との共同提案をする。そして、町内会の皆さんの協力を得て、上越市とともに課題の解決に向けた行政と地域による共同事業として行っていくべき事業であるというように目的でうたっている。

「４）取組の内容」としては、どんなことがあるかというと、前に出されているものを少し整理をしてまとめたものが「どんな取組を実施したいか？」であるが、一つは、各町内会の自主防災組織の点検と再編成ということで、有事の際に機能する組織を作っていくためには、どうしたらいいかということを考えていくということ。そして、２番が避難所開設シミュレーションや一般市民の避難所体験、ＡＥＤ講習など、経験値を高める取組をしていく。有事の際に対応できる人を増やしていく、育てていくということを提案した。それから、三つ目が防災に強いまちづくりということである。

それぞれを、もう少し詳しく説明すると、「１）各町内会における自主防災組織の再構築」ということで「①避難所運営ゲーム『ＨＵＧ』の開催」。それから「②避難所体験」直江津小での模擬避難所開設を行い、運営と避難所体験を実施していく。「③町内会単位

での有事の際の防災組織再構築に向けた防災士会との意見交換会と組織改編」ということを、町内会単位、或いは、もう少し広げた避難所範囲で行うことをしていこうということである。

「２）災害への対応力への強化」は、一般住民や市民の人たちへの啓蒙的な部分があるが、災害発生時における避難行動、避難経路等の行動ポスターの作成。ハザードマップの活用、情報の入手方法等から、マイタイムライン作成の勉強会をする。自分が有事になったときに、どのように行動していくかということを、家族で共有するといったものを作るということである。ＡＥＤの講習会、ＡＥＤ所在地マップ一覧等を作るということが、災害への対応力の強化ということである。

「３）災害に強い都市構造の構築」は、まちなかの海抜表示等があるが、避難所への誘導看板が、一部港町では作られているということで、そういうものをまちなかに設置していく。これは、住民はどこに逃げるかわかっているけれども、来訪者の人たちに、例えば、我々が高田で災害に遭ったときに、どこにどう逃げればよいのかというのがわからないというようなこともあり、わかりやすい表示が災害に強い都市構造の構築というところに結びついていくのではないか。この２番と３番は、第７次総合計画の目標の大きな項目になっているので、その名前をつけたということである。

「５）取組の実施方法」は、ステップ１として、①上越市が直江津地区をモデルとして自主防災組織の強化を行う。②各町内会に集まっていただき、事業の趣旨説明、モデル町内を選出してやっていくというような、市が音頭をとって、市が市民の人たちや町内会にオファーをして、これをやってこうというふうに動いていかないと、町内会や我々の申し出だけでは動いていかない部分もあるので、そういうことをしていくということである。ステップ２は、三つの取組内容を実施していく。実施主体は上越市である。実際に上越市がいろいろなことをできるかというと、なかなか難しい。そこで、上越市から防災士会直江津支部へ業務委託をしてもらう。これが１０分の１０という話である。ステップ３としては、直江津区、各町内会を網羅するには、少なくとも５年計画くらいのロングスパンで実施をしていく、計画を作っていく。それは、直江津区をモデルにして、他区においても実施することが望ましい。或いは、実施していく一つのモデル、先進例となるというような形で動かしていってはどうかという一つの提案を今回したいということである。

冒頭話をしたように、参加された方々からは、概ねこのような考え方に賛同いただき、

それで向かっていこうという話であった。これをベースに、事業の概要書を作っていくことになる。その時に、上越市に対して強い口調で言っている部分があったり、実行する事業について５年単位のなかでまず最初になにをやっていくか等、もう少し簡単に取り組めるものから進めていき、機運を醸成していきながら一緒に作り上げていくというような提案書に直していきたいと思っている。３）取組の目的の一番下にある、上越市と共に課題を解決していく。そのために、行政と地域による協働事業という形を作っていくために、市の協力を、或いは、市が自分の事業としてやろうと思ってくれるような提案書を作って、少しやわらかく提案、提言をしたいと思っているところである。

【青山会長】

今ほどの直江津地区自主防災組織事業ワーキンググループの説明について、質問や意見を求める。

【水島委員】

私も、磯田副会長から声をかけていただいたが、都合でどうしても出席できなかったことを、まずここでお詫び申し上げる。磯田副会長以下、集まられた皆さんで、これだけの資料をお作りになった。磯田副会長は、今までも多くの資料をお作りになって、感謝を申し上げる。

ただし、いつも言っているように、視点をどこに置いておくのか。日にちがないと、先ほど磯田副会長がおっしゃっていたが、視点を置いたなかで、どういうものを今回提出するのか。先ほど、磯田副会長が５年ぐらいかけて、というようなお話をされた。今後５年かけて、それはそれで大変結構なことだと思う。例えば、地域協議会として、上越市のためにこういう防災的なことをいろいろ考えていく。市も本気になって考えてほしい。これは大変結構な素晴らしいことだと思う。ただし、我々がここでやらなければいけないのは、とりあえずこの８月で方向性を決めて、出すのか、出さないのか。早く方向性を決めないと、話し合いだけで終わってしまうような気がする。そのへんを、磯田副会長にお聞きしたい。

【磯田副会長】

今までの議論のなかで、出すということを前提に、皆さん協議してきているわけで、これは提案書を出す。それから防災士会の皆さんも、それについては賛同していただいているし、全部の町内会ではないが、町内会の皆さんも、来ていただいたところは、協力させていただくという話になっている。他のところも、お声がけをすればそういう方

向に行くと思っている。方向性というのは、ここに書いてあることを、５年計画になるかわからないが、そのタイムスケジュール的ななかで、こういうことをしていく。或いは、直江津地区全体が２２町内あるので、一つずつ入っていこうとすると、何年かごとにやっていく。その入り方もいろいろな町内事情があるので、そこのところを上越市と、防災士会と、地域協議会と町内会長連絡協議会、その４者が一つのテーブルに乗れるような意見交換会的なものを、まず最初に、初年度に作りたい。これは、私が昨日感じていて、住民、防災士会の人たち、地域協議会と一緒に考えて、直江津の防災の再編をしていこうというような、一つのプラットフォームを提案しようと思っている。そのなかで、たくさんの意見がまた出てきて、５年計画の初年度はこう動くけれど、２年後はこのように修正していこう、という動きを作るような提案にしたいと思っていて、５年の予定をびっしり書いて出すつもりはない。

【古澤委員】

昨日、私も出席させていただいて、いろいろな意見が出た。ここに書かれた項目は、全部防災士会のほうで、やりたいという意見であった。これを全部やることは不可能である。今、取り掛かっていくのは、全体的なものを見て、そのためにどうしたらいいのかということで、防災士会と直江津地区町内会長協議会、上越市等で問題を出し合いながら、どこが強みなのか、どこが弱みなのか、或いは、町内会が２２あるが、いろいろな事情を抱えている町内等もある。それをどう克服していくのかというような部分から入っていけばいいのかなと思っている。取り掛かりやすいものから入っていって、実効性のあるものからまた話し合う。時間もないが、そこからやってみるしかないのではないかと思った。

【青山会長】

他に意見を求めるがなし。

次に、直江津地区環境整備事業ワーキンググループに説明を求める。

【増田委員】

集まっていただいたのは、ひまわり會と五智公園を育てる会から来ていただいた。この二つの団体には、地域独自の予算とはなにかということと、このまま今の団体独自でやると、令和６年度は１０分の９だが、その次は１０分の８、最後は１０分の７になるという話をして、そうではなく、やはり市の事業として１０分の１０の事業としてやっていかないと継続が難しいという説明させていただき、この点については十分に理解し

ていただいた。具体的になにをするかは、概要書にまとめてある。読みながら補足説明をしていきたい。

「取組の目的」は、「五智公園を広く市民に知ってもらうこと、市民の公園として楽しく利活用していただくこと、市民と行政との協働により里山として整備を進め貴重な動植物の保護・育成を行うこと、八重桜の名所として広く発信することを目的とします。」これは、五智公園に関してである。その次は、「また、市民や信州のお客様の海遊びの場となっている直江津海岸をひまわりやコスモス、アジサイ、百日紅等の植栽により花の景観を楽しんでいただくこと、植栽により景観保持とゴミのポイ捨て防止を図ること、地域の小学生に参加してもらい郷土の環境美化と郷土への愛着の気持ちを持ってもらうことを目的とします。」と整理させていただいた。目的なので、端的に書いた。「期待する効果と数値目標」については、特に数値目標はどう書いたらよいかがわからないので、また後で北部まちづくりセンターと相談しながら書く。

「取組の内容及び実施方法」で、まず最初に「取組の内容」は、「１．直江津区の環境を総合的に考え整備するために広く市民から賛同者を募集します。賛同者により実行委員会を組織します。賛同者は適宜募集します。２．具体的な活動は実行委員会で決定して賛同者により実行します。３．実行作業は２団体の指示に基づいて行います。」これが進め方の説明である。それから、次は個々に、「五智公園に関して」は、「①五智公園の里山としての魅力や動植物を紹介する講座及び散策会と写真展の開催。②五智公園の里山としての魅力や遊歩道・散策路及び動植物を紹介するパンフレットの作成と配布。③八重桜を紹介するパンフレットの作成と配布。④五智公園の里山整備・遊歩道と散策路整備活動（作業範囲、方法は行政と相談して進めます。）⑤五智公園の動植物の維持・保全活動（活動は行政と相談・連携して行います。）」ということで、④と⑤は、すごく似ているように見えるが、④のほうは、里山整備と遊歩道・散策路の整備である。⑤は、そこにある動植物の維持・保存、保全という活動で、活動の中身が二つに分かれる。「シーサイドラインに関して」は、「①五智居多ヶ浜シーサイドラインの植栽拡大と整備と草刈（拡大に関しては行政、地主と相談・連携します。）」ということで、具体的な内容は、次に書いてある。「②植栽の周りに看板を設置し事業の目的を周知。③清掃活動を実施（他団体への活動参加を含む）④如何にしたらゴミが減るかを考える場の提供」を行うということである。

次に、実施方法である。皆さん見てわかるとおり、取組の内容の次に続けて実施方法

を書くと、すごくストーリーとしてわかりやすいのだが、取組の項目があって、次に欄が変わって実施方法があるのは、すごく見にくい。これは様式として考える必要があるのではないかと思う。「五智公園に関して」は、「①講座の開催。場所は、レインボーセンター。時期は、春または秋。講師は、五智公園を育てる会。②散策会は、春と秋。講師は、五智公園を育てる会。③写真展。秋または冬。場所は、エルマールにて２日間。内容は、樹木や植物、景観の写真を展示。以上は、チラシを作成配布し、広報上越でも周知をする。④五智公園の里山としての魅力や遊歩道・散策路及び動植物を紹介するパンフレットを作成し配布します。⑤八重桜を紹介するパンフレットを作成し配布します。⑥五智公園の里山整備・遊歩道と散策路整備活動と五智公園の動植物の維持・保全活動は賛同者により行政と連携しながら進めます。(使用する用具は育てる会が保有しているものを使用することを原則として不足するものは購入します。)」これが五智公園に関する作業の進め方である。チラシは、直江津地区、五智地区の町内会回覧にする。その他は、公の施設に配布する。パンフレットも、具体的な部数はこれから精査して決めていきたいと思うが、およそ１，５００部から２，０００部になるのではないかと思われる。それから、「シーサイドラインに関して」は、「①植栽の範囲は現在４００ｍとなっていますが、将来的にはこの範囲を居多ヶ浜シーサイドラインの両側の降り口まで延長します。令和６年度は西側に１００ｍほど延長します。春は、スイセン、菜の花、レンギョウ。夏は、アジサイ、ひまわり、シラン。秋は、コスモス、サルスベリの植栽と維持管理（草刈、補植、施肥、植替え等)。②植栽の周りに看板を設置し事業の目的を周知します。地元の小学生から看板の下絵の作成協力をいただき、それを元に看板を製作・設置を行い、訪れる人々に景観美化を訴えます。③他団体と連携して植栽範囲や海岸の清掃を行います。④五智公園を紹介する講座等の機会をとらえてごみについて考える場を設けます。」ということで、これが取組と実施方法である。

予算は、一応項目立てだけした。簡単に説明すると、「五智公園賛同者募集チラシ」は、とりあえず１，０００部と書いたが、直江津町内回覧と、主要施設への配布。「講座と散策会のチラシ」１，０００部で同じである。「公園と八重桜のパンフレット作製」は、１，５００部で、市内配布に加えて観桜会、観蓮会等で配布するということを考えていきたい。「植物パネル作成」は、五智公園を育てる会の提案である。それから「写真展」は、会場費と写真プリント展示の費用がかかる。それから「整備用具」は不足するものを買う。「作業時飲み物」、「事務消耗品」、「保険」があるということになる。それから「シー

サイドライン」は、「花苗、種」、「客土、肥料」を買う。「作業道具の借料」がある。「作業消耗品」は手袋等。「看板」、ＰＲする「チラシ」を作る。「作業時飲み物」、「事務消耗品」がある。打ち合わせ会議をやるということで、「会議会場費」があるということ。最後に「保険」。これらが、必須項目として今考えられるということで、このような計画になっている。

この計画を作ることに関して、二つの団体は、「方向性は賛成です。」ということだったので、私のほうで提案書を書いて、出す前に二つの団体から確認をしていただき、それから出すということにした。それから五智公園については、進めるときや作業等は、都市整備課と相談、連携しながら進める、というスタンスでいきたいと思っている。

【青山会長】

今ほどの直江津地区環境整備事業ワーキンググループの説明について、質問や意見を求める。

【田村委員】

実施方法の五智公園に関しての⑤について、これはどのくらいのことを想定しているのかわからない。里山整備・遊歩道と散策路整備活動と動植物維持・保全活動を、上越市が本当にどこまで公園事業としてやっていくのか。考え方をお聞かせ願いたい。

【増田委員】

賛同者の数か、やり方か。

【田村委員】

予算規模がわからない。どこからどこまでを整備しようとしているのか。遊歩道全体なのか。それとも、里山の整備というのは多分草刈のことだろうと思うが、枝落とし等も含めてどこまでやるのか。

【増田委員】

草刈りは今委託に出しているので、ここでやる予定はない。里山整備は、五智の山はすごく広い。広い山を全部一度にやるなんて、とても無理な話なので、集まった人たちの人数をみながら、その年の作業を決めていく。そういったことを決める範囲や、やり方については、都市整備課と話しをしながら進めるということになる。付け加えるが、賛同者はチラシで募るが、私たちも賛同者を募るときに一緒に協力をしていただきたいと思うし、私たち自身もそこに加わっていけたらいいなと思っている。予算規模は、何をどのくらい買うかということは、やってみないとわからないし、どういう作業をどの

くらいやるかというのは、もう少し都市整備課と話をしてみないとわからないが、都市整備課としては、「動植物の保護活動については了解しました。それから、市民と一緒にする、里山整備、遊歩道整備、散策路整備活動については、方向性は理解しました。」というふうに言っている。ちなみに、遊歩道と散策路整備活動は、五智公園を育てる会が予算化をして、北部まちづくりセンターのほうに出してある。それを入れれば、もう少し予算範囲が広くなると思うので、予算をそこに乗せて計上しようかと思っている。

【青山会長】

その他に意見を求める。

【田中美佳副会長】

意見交換の日は都合が悪く、参加せずに申し訳なかった。

この二団体は、今までそれぞれに活動をされていて、今回も提案書を出されていて、自分たちの団体でやるというふうにされていたと思うが、こちらの話を理解されて全面的にこちらに入ってくださるということなのか。そんな言い方をしてはいけないとは思うが、自分たちで提案し、とおれば今回１０分の９の補助金がもらえるわけである。それは自分たちの責任でもらえると思うが、もし私たち地域協議会が、その二団体に自分たちで提案するのをやめてもらって、私たちの提案に加わってもらって、もし、とおらなかったときにどうなるか、二つの団体の方たちは理解されているのかということをお聞きしたい。

【増田委員】

地域協議会の提案で、なんとか１０分の１０でやろうということで、一生懸命検討しているが、仮に難しいという話になったときは、非常に残念だが、二つの団体からは独自にやってもらうということになる。そのことは二つの団体に説明をしてある。だから白が黒かではなくて、様子を見ながら、地域協議会の提案がなるべくとおるように、私たちは努力をしながら進めるけれども、どうしても難しいということになれば、その情報を二つの団体にお知らせして、二つの団体から出してもらうという段取りになる。

【田中美佳副会長】

では、そういうことを両団体にご理解いただいているということか。

【増田委員】

十分に理解していただいている。

【田中美佳副会長】

すごく言い方が悪いが、「こちらで駄目なら、もう一度そちらで出してくれ」という話になってしまうのではないか。

【増田委員】

いざというときは、そうせざるを得ないが、そこの事情もしっかりとお話をして理解していただいている。

【田中美佳副会長】

承知した。

【青山会長】

他に意見を求める。

【磯田副会長】

ワーキンググループに分かれて動いてきたので、環境整備事業のほうには参加していないし、参加者も少なかったようである。その時点で向こうの方々にお示しする文面もなかったように聞いているので、その二団体が、増田委員のおっしゃっていることを完全に理解されていたかどうかは、その事後の団体さんのお話を漏れ聞く限りは、諸手を挙げて賛成というような雰囲気ではなかったように聞いている。そのなかで、まず各団体で出している以上の要件が出されてあるわけである。新たな事業を、増田委員のアイデアとして、いろいろ出されているわけだが、その是非とか、それを本当にする意義だとか、例えば地域活動支援事業だったら、一つ一つのことをかなり深掘りして、五智公園だったら、「それは要らないんじゃないか」とか、パネルは、「毎年作っていってもいいよね」とか、地域協議会として、かなりシビアな審議をして決めてきたわけである。このタイムスケジュールでいくと、今回そういうことを地域協議会のなかでも議論できないなかで、これを実行していく。或いは、この新たな事業が提案団体の人たちが、自分たちの事業として、自分たちがやるものとして、理解されているのかどうかというのが非常に心配である。実行委員会を組織してというふうにおっしゃっていたが、それを作るのがなかなか難しい。二つの団体との関係性を、指導してもらうとあるが、この全体の環境整備事業を、誰がどう動かしていくのかというと、二つの団体の人たちも自分たちのキャパ以上のことは、なかなか難しいという印象を持たれているという話も聞いている。それこそ、これを推進していくために、地域協議会の有志が実行委員会として積極的に動かしていくような形を作っていかない限りは、なかなか新たな事業をやっていくというのは難しいのではないかというところがある。動かし方や、新たな事業全部

をどうしていくのかということについて、増田委員のお考えや、イメージというものがあればお聞きしたいと思うし、北部まちづくりセンターには、団体の皆さんのニュアンスというか、情報が入っているようであれば、お聞かせ願いたい。

【増田委員】

二つの団体、特に五智公園を育てる会は、会員が高齢なので、いつまで活動できるかということも考えているような状況とのことである。「五智公園を育てる会が中心になって動いていただきたい」という話を最初はしたのだが、非常に高齢であるし、参加する人数も少ないので、「それは無理です」とのことであった。そういう状況のなかでどうしたらよいかと考えたときに、やはり賛同者を募るなかで、その賛同者のなかに二つの団体にも加わっていただいて、実行委員会形式でやるのがよいのではないかと思った。「誰がやるんだ」と皆さん思っている。私が実行委員会を組織して、やっていこうという覚悟があるからこう書いているのである。誰か他の人にやってもらおうなんて、そんな無責任なことを私は考えていない。そういうふうに進めないと、少なくとも直江津区の１０分の１０の事業を進められない。環境整備の事業については、先細りになってしまうという危機感があるので、団体の皆さんには理解をしていただいたということである。佐藤所長のほうで、なにか補足があればお願いしたい。

【佐藤所長】

今ほど増田委員が言われたように、二つの団体から考え方については「いいね」というお話をいただいているなかで、やはり、この先のことをお考えになられているという状況であった。当日、ジョイントという単語が出てきたので、自分の事業以外のお手伝いをするのは少し難しいというお話があった。「今自分がやっているところで、精一杯かな」ということはおっしゃっていた。総論は賛成といったところである。

【青山会長】

増田委員、今のジョイントは難しいという話はどう思うか。

【増田委員】

非常に難しいと思ったので、それに代わるものとして、賛同者を募って実行委員会を作りやっていくというストーリーにした。最初は、二つの団体が中心になって動かしてほしいと思っていた。その趣旨で話をしたのだが、相当に難しいとのことだったので、それでは、第三者も入れて実行委員会方式でやっていこうというストーリーに変更している。

【青山会長】

この件については、２５日までに提案書の作成をお願いしたい。それで、意向を確認しながら、９月１２日の地域協議会で提案の可否を採決する。こういった段取りになるが、増田委員進めていただけるか。

【磯田副会長】

地域協議会の提案として出して、駄目ならば、保留している各団体が出している提案に切り換えて、という話を前回の会議の時に増田委員がされていて、そこについて深く議論する時間がなかったが、本来制度的には無理な話である。タイムスケジュール的にも、また、他の団体の人たちには、８月末が締め切りと言っておきながら、地域協議会が主導して、そういう動きをしているという印象にとらえられかねない。我々が、市でやってもらう事業であるというふうに思ってこれを提案するわけであるが、市がそう認識するかどうかは別の話である。先ほど自主防災組織事業のところで言ったように、プラスアルファとしての提案意義みたいなことを強く言っていかないと、二団体がもうすでにやられている事業に上乗せしてという形なので、採択としてはかなりハードルが高いという印象がある。その時に、地域協議会の提案が駄目だったら、後で各団体に差し替えて出してもらうという話は、この制度からしても、地域協議会として行き過ぎたやり口なのではないかと、私は個人的に心配している。自主防災のほうの関係団体には、一緒にやってもらって、もしとおらなかったら、独自予算は諦める。だけど、一緒に協議をしていきながら、次年度以降につなげていくような、市との意見交換を何回もやろうとか、実行していくのだったら、どういうふうにやっていくのがいいのか、協議の場を設けて詰めていこうという話をしている。そのことも２１日の意見交換では、了解を得ていると思っている。今回出す意義と、それから制度的なところで、直江津区がごり押ししているのではないかというような、或いは、その抜け道みたいなところでとおそうとしている印象があるのであれば、そこはもう一度真摯に考えた方がよいのではないかと私個人としては思っている。皆さんのご意見をいただきたい。

【青山会長】

関連を含めていかがか。

【田中美佳副会長】

私の考えだが、今まで団体の皆さんが、それぞれ課題がありながらも独自でやられていることなので、団体の方々が「ぜひやりたい。地域協議会と一緒に市に働きかけて、

ぜひやってもらいたい。」という思いで、「もしこれが駄目でも大丈夫です。」というぐらいの心構えならば、それもありだとも思うが、地域協議会がお誘いするからには、それなりの全員一致の意見というか、地域協議会として出すものであるので、皆さんのご意見をお聞きして、どうなのかを判断したほうがいいのではないかと思う。

【田村委員】

話を聞いていて、少しリスクが大きいと思った。なぜかというと、例えばこの提案がかなり詳しく書いてあるが、もし駄目だったら、各団体がやるというのはそれも無理かなと思う。ある意味では、私どもの覚悟だと思うが、その団体に対して少し失礼に当たるのではないかと思う。そこまで、その二団体が覚悟を持って、もし駄目となったらどうするのかと、私どもも非常に責任を感じてしまう。それならば、１０分の９で各団体から出してもらったほうが、まだ救われるような気がする。

【佐藤所長】

皆さんのご意見が出尽くしたのであれば、事務局から提案をさせていただきたい。

今、いろいろなご意見をいただいたところだが、そのなかで団体を心配されるご意見もあった。ワーキンググループでは、資料をお出ししない形で団体の皆さんとお話をし、今増田委員から資料が提出された状況である。これを正副会長で、これから団体のほうに説明し、団体の感触を掴まれる。それをまた地域協議会で報告する、というような形で進んでいかれてはどうかと思ったが、いかがか。

【青山会長】

三役のほうで団体の意向を確認するということか。

【佐藤所長】

そのとおりである。

【青山会長】

それについて、皆さんいかがか。

【古澤委員】

今、懸念する声が出ている。その声も、大事に受けとめなければならないと思っている。事務局から提案されたように、団体に話してみて、やはり公平性を持ってやっていただければと思う。

【青山会長】

増田委員はいかがか。

【増田委員】

皆さん、もう一度原点に返って考えてほしい。私たちが手を引くのは簡単である。余計なことをしなければそれで済む話である。これをまとめるのは、ものすごく時間がかかるし、体も動かさなければいけないし、いろいろな話をしなければいけないし、すごく大変である。しかし、仮に私たちが手を引いてしまったらどうなるかというと、団体は、来年は１０分の９でなんとかできるかもしれないが、１０分の８、１０分の７になったら、ほとんどできないということになるだろう。団体が、今まで一生懸命活動してきて盛り上げてきてもらったことを、地域協議会が見殺しにしてしまう形になってしまうのではないかということを、私は非常に心配している。私たちが汗をかけるのだったら汗をかいて、なんとか直江津区の発展につなげていきたいという思いで、言い方は悪いかもしれないが、余計なことまで手を出してやっているわけである。

そういうことで、皆さん心配されているけれども、そういう心配を考慮に入れながら、どうやって進めていくかという努力をするのは、今の地域協議会の役割なのではないかと思う。なので、いけるとこまでいってみる、なるべくとおるようにやってみる。そうしないと、どこもかしこも全部の事業がなくなってしまう。１０分の９、１０分の８、１０分の７になって、上越市の市民活動はほとんど低下してなくなってしまうという、こういう時期を迎えているので、直江津が頑張らなければ駄目なのではないかという思いである。そういう意味で、皆さんにいろいろ言われながら、私は余計なことをやっているのだが、そういう事態だけは、しっかりと基本認識として持っていていただきたいと思う。私が説明するといろいろと語弊があるかもしれないということで、三役から説明してもらうことについては、一向に構わない。その時に、「これが駄目だったら、団体の方も駄目だよ。」という、脅かすような説明の仕方は、ぜひやめてほしいと思う。これをとおす、とおさない、どうしたらとおるかということは、今後、所長を含めた事務局と相談しながら進めていくことになる。そもそも独自予算の説明に、「まちづくりセンターまたは区総合事務所と相談しながら進めていく」とある。単に来たものを受け付けるのではなくて、当然相談に乗りながら進めるということになるので、これがやはり行政の進め方だと思う。そんなことで進めていきたいと私は思っている。

【水島委員】

先ほどからお話を聞いていて、非常に不愉快に思うことが一つある。増田委員が「責任を持ってやります。」と言われているにもかかわらず、「それはどうか。」というお話が

あった。これはここの場で出すべき話ではないと思う。「責任を持ってやります。各団体と話をしてきました。それについて、こういう資料を出しています。ですからそれは、私の責任でなんとかやります。」皆さんの言うことはよくわかる。わかるが、日にちがない。あと３日、２５日までに出さなければいけない。それで、私は、先ほど所長がおっしゃったように進めるのが、最善の方法だと思う。せっかく増田委員から資料を作っていただいたので、これをもって正副会長で二団体の方々とお会いになって、この場であったことをご説明いただいて、ご理解いただくというのが最善の方法ではないかと思う。

【青山会長】

他の委員の皆さんはいかがか。

それでは、２８日から９月１日の間で意向を確認したいと思う。事務局のほうで、団体の予定を確認していただきたい。

【佐藤所長】

了解した。

【青山会長】

それでは、そのように進めさせていただく。

今後の流れを確認すると、各ワーキンググループの取組の概要の提出は、２５日まで。各団体の意向の確認は、２８日から９月１日の間で日程調整をする。そこで、正副会長で提案の可否を協議して、９月１２日に予定している地域協議会の場で提案の可否を採決する。このような方向で進めたいと思うがよいか。

（委員同意）

では、そのように進めさせていただく。三役が団体の意向を確認するときには、増田委員にも出席してもらいたい。

【古澤委員】

三役だけのほうがよいと私は思う。

【田村委員】

資料を作ったのは増田委員なので、資料の説明をしてもらわないといけない。三役が話をして、本人の意向のとおりにきちんと伝わるかどうか、少し心配である。

【磯田副会長】

副会長としては、増田委員に出ていただいて団体の人ときちんと一緒に話をしたほうが、お互い納得感があると思う。

【青山会長】

私もそう思う。増田委員、出席をお願いしたい。

【磯田副会長】

少し戻るが、増田委員がプラスアルファで追加している事業について、増田委員が担当でやると言ったから、すべて提案するというわけではないはずである。本来は、地域協議会のなかで揉まなければいけない話である。我々はこれまで、団体に厳しい話をしながら地域活動支援事業を審査してきたので、今までの経緯や継続性や、団体の方々も市の担当課といろいろ協議しながらやってきている事業である。

また、実行委員会組織としてやると言っているが、そこがほとんど見えていない提案書になっているので、そこをどう作っていくのかというところも、本当はもう少し書いてもらわないと提案書としての形が見えてこないと思う。まだ途中段階だということは十分理解できるが、そこを示していただいて、自主防災組織事業もそうであるが、２５日までに形を提案していただくということにしていただければと思う。

【増田委員】

磯田副会長の話を聞いていると、取組の内容や実施方法は、私が独自に勝手に作ったように聞こえるが、二団体と話をするなかで、「こういうことが考えられるので、これはどうですか」というように、項目としては全部お話をしてある。その上でまとめたものなので、私が勝手に作ったわけではない。

それから、実行委員会のところがよく見えないという話だが、どういうふうにすれば見えるのか。今の段階で、「こういうふうにして実行委員会を作り、賛同者を募集します。募集の方法はチラシで周知します」と書いてあるわけなので、募集したなかで実行委員会を作っていく。実行委員会のメンバーが何人だとかというのは、そこまで言わないと理解できないのか。実際は、５、６人いれば実行委員会はできるので、そうやって作っていけばできるのではないかと思う。要は、どうしたらできるかで、「これができるか。これがどうなんだ。こういう心配があるから、ここはこういう工夫をしたらどうですか。」という意見をもらうとありがたい。「そんなことで、できるのか。」みたいなニュアンスの意見ではなく、お互いに気持ちを合わせながら進めていきたいと思う。

【青山会長】

それでは２８日から９月１日の間で、三役が団体の意向を確認する。そのときには、増田委員も参加してもらう、ということで進めたいと思う。

その他について、事務局より説明を求める。

【小川係長】

・次回協議会：９月１２日（火）午後６時３０分から

【青山会長】

委員から他に意見等はあるか。

【増田委員】

通年観光について、先般市長が来て意見交換したそうだが、その通年観光の範囲に直江津が入っている。直江津の通年観光の話をするときに、地域協議会が全く蚊帳の外になってしまっている。通年観光のプロジェクトで直江津担当の職員が決まっているそうなので、その人たちに来てもらって、「直江津の通年観光はこう考えています」という説明をしてもらう必要があるのではないかと思う。通年観光の計画策定でコンサルに委託したという話を聞いているが、全然私たちには情報として伝わってこなく、ただ報道で知ったので、やはり通年観光に関しては、直江津が対象になっているので、行政の担当から来てもらってしっかり話を聞きたいと思う。

もう一つ、五智公園に関して、整備計画が地元の町内会や五智公園を育てる会には説明されているそうである。私たちは全く蚊帳の外である。先日の意見交換では、森林税が「五智公園の整備に使えないか」という話も出たが、そのへんも含めて、五智公園の整備計画がどうなっているかということを、話をしてほしいと思う。前々から地域協議会として、五智公園、三八市、福島城はどうにかしないといけないという意識を持っているので、そんなことをお願いしたいと思う。

三つ目は、この地域独自の予算だが、皆さんに聞いても「こんな使いにくい制度はない」と言っている。皆さん困っている。これに関して、私は、直江津区地域協議会として市長に意見書を出したほうがよいのではないかと思う。議会のほうも、そこまで切実にものを考えていなくて、なんとなく「１０分の９、１０分の８、１０分の７なんだってね」ぐらいでとらえられているが、実際に、今まで活動してきた市民団体については、すごく困っている。先ほどから私が言っているように、来年度は１０分の９だから、なんとかなるかもしれないが、１０分の８、１０分の７になったら、ほとんどどこの団体も手を挙げないという状況が見込まれるということで、市議会で質問された方もいらっしゃるが、そういう状況だとすれば、市民団体のため直江津区地域協議会としては、市長に意見書を出すということも考えたらいいのではないかと思う。

【青山会長】

今、増田委員から提案があった三点について事務局の考えをお聞かせ願いたい。

【佐藤所長】

まずは、地域協議会でどうするか協議いただきたいと思う。

【青山会長】

市の担当課を呼ぶのは、事務局だと思う。

【佐藤所長】

お呼びするのは全然やぶさかではない。地域協議会として呼ぶかどうか意見交換をしていただきたいと思う。

【青山会長】

ただいまの三つの提案について、皆さんいかがか。意見を求める。

【水島委員】

今増田委員がおっしゃられたことに、全面的に賛成である。呼んでいただいて、いろいろなことを教えていただければ、次の議論にも役立てるかと思う。

【青山会長】

その他に意見を求める。

通年観光と五智公園の整備計画の担当課に来ていただくのはよいが、地域独自の予算が使いにくいので、市長に意見書を出すという意見についてはいかがか。

【増田委員】

補足説明をすると、地域独自の予算に関して、北部まちづくりセンターからいろいろと説明を受けているが、地域政策課から「実はこうなんです」という説明をしていただいて、私たちが危惧していることを意見交換しながら、もっと良く理解する。理解した結果、これはどうしても市長に意見書を出したほうがいいということになれば、意見書を出すし、よく理解できたということになれば、意見書は出さない。いずれにしても、地域政策課から来てもらい、しっかりと説明を受けて、私たちの懸念していることに答えてもらうという場が必要ではないかと思う。

【青山会長】

今からか。今提案を検討している最中である。

【増田委員】

今回はもう間に合わない。来年のことを考えたら、どこかでもっとてこ入れしておか

ないと、先細りになってしまう。やがて、全部駄目になってしまうので、どこかでそういうことをやらなければいけないと思う。

【佐藤所長】

日程を調整して、次回から間に合えば議題に加えていきたいと思う。

【青山会長】

他に意見を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言

9　問合せ先

総合政策部　地域政策課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。